

—収蔵資料紹介—

## クマタカ

(資料番号 : H25-183)



写真1 (左)  
クマタカのはく製

写真 (右)  
2017年3月12日  
長谷川喜江撮影

写真1は、青柳小学校の展示室で展示されていたクマタカのはく製（標本）です。青柳小学校の耐震工事による標本室の閉鎖に伴い、博物館では一部の標本を受け入れました。その中に、羽が抜けかかっていたが、一見してクマタカと分かるはく製がありました。その名前が示すとおり、〈クマ=大きく強い〉タカなのですが、その姿は、一言で「残念」と言うしかありませんでした。さらに、採集日、採集場所に加え、誰が寄贈したかも分かりませんでした。他に受け入れた、アカショウビンやクイナなどはく製は、校舎裏で保護され、落鳥（死んだ鳥の事をこう呼ぶ）したことが資料本体に記載されていたからなおさらです。

実は、平成29年3月29日付けの北海道新聞道南版「みなみ風」に、函館山で舞うクマタカを横からとった写真が掲載されました。これは当館が実施していた「自然観察入門講座」での一コマで、函館山から下山中に、講座参加者の一人が、カラスに追われながら目の前を横切るクマタカの姿を写したものです。

このことは、クマタカが函館山にも飛来する証拠となり、もしかしたらはく製となった個体も、小学校近辺で保護されたのかもしれない。

さて、クマタカが含まれる科名は、以前はワシタカ科として分類されていましたが、2012年に発行した『日本鳥類目録 改訂第7版』からタカ科に統一され、現在はタカ科に変更されました。タカ科の仲間は、はっきりした区別はありませんでしたが、一般に体の大きいものをワシ（鷲）、中型から小型をタカ（鷹）と呼んでいるようです。初心者に説明する場合は、以前の科の方が分かりやすかったと思います。

クマタカは、日本ではタカの中で最大の鷹だったのですが、〈Mountain Hawk-eagle〉の〈eagle〉の英名が示すように、世界標準では立派な鷲であるため、ワシと言っても何ら不思議ではないです。しかし、ワシに分類されると、その大きさは中型位になるのでしょうか。

クマタカは、国のレッドデータブックに記載され、日本では個体数が減少傾向に有る貴重な野鳥です。北海道でも、20年ほど前まではご多分に漏れず、観察するのが困難な野鳥でした。しかし、近年の鳥類観察人口の増加や環境アセスメント事業の増加などにより、道南での発見例が目立って多くなってきている野鳥とも言えます。（佐藤 理夫）

## — 収集・収蔵 —

## — 普及（展覧会） —

## 収蔵資料概数一覽

※平成30年3月31日現在

分類	件数	点数
博物館史	300件	1,500点
地質鉱物	20件	2,000点
植物	10,100件	10,400点
動物	7,900件	21,700点
考古	2,800件	575,900点
歴史	4,900件	21,700点
民俗	6,600件	32,800点
民族	6,800件	8,400点
美術工芸	3,000件	4,000点
合計	42,420件	678,400点

※一括は1件1点と計算しています。

※100以上は2桁の端数を切り下げ表示し、100未満は1桁の端数を切り下げ表示しているため、実際の数値より少なくなっています。

※収蔵資料データベースの再整理を実施したため、収蔵点数が大きく変動しています。

## 平成29年 新収蔵資料

※平成29年1月1日～平成30年3月31日登録分

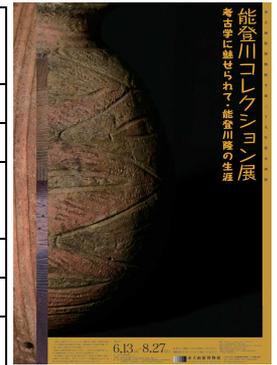
- 弁天台場解体工事写真 2件 2点  
【函館市：丸子 美智子氏 寄贈】
- 広告デザイン帳 1件 1点  
【七飯町：長川 清悦氏 寄贈】
- 函館市復興事務局旧蔵ガラス乾板 1件 一括  
【函館市都市建設部都市整備課 移管】
- 扱収集土器他 3件 231点  
【函館市：伊藤 セツ氏 寄贈】
- 花ござ他 4件 4点  
【函館市：畑井 朝子氏 寄贈】
- 懐旧館記録帳 1件 1点  
【函館市：木村 ひさ氏 寄贈】
- 花鳥人物屏風他 14件 33点  
【函館市中央図書館 移管】
- 棒酒箸他 23件 24点  
【八雲町：椎久 健夫氏 寄贈】
- 青函連絡船関係資料 20件 42点  
【函館市：大塚 隆氏 寄贈】
- 組膳・雲龍図他 7件 21点  
【函館市：相馬 定雄氏 寄贈】

## 企画展

## ■ 能登川コレクション —考古学に魅せられて・能登川隆の生涯—

函館の考古学者能登川隆が収集した考古資料群である「能登川コレクション」を、能登川氏の生涯と生業である能登川商店に関する資料や調査研究資料と合わせて展示・紹介しました。

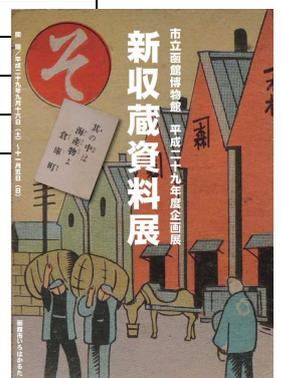
期 間	平成29年6月13日(火)～ 8月27日(日)
開館日数	66日
後援・協力	北海道考古学会他5機関
出品協力	深野せき子氏・北海道大学植物園・博物館他1機関
出品資料	能登川コレクション他361点
観覧者数	2,569名
関連事業	関連事業 釣り針作り、土器作り、展示解説セミナー
担 当	小林・大矢



能登川コレクション展示風景

## ■ 新収蔵資料展

期 間	平成29年9月16日(土)～11月5日(日)
開館日数	39日
後援・協力	市立函館博物館友の会他1機関
出品協力	なし
出品資料	函館市いろはかるた他147点
観覧者数	2,684名
関連事業	展示解説セミナー
担 当	尾崎・保科



新収蔵の展示解説をする実習生。観覧者を前に各持自分の展示したパートの解説を担当しました。

## 収蔵資料展

### ■ 博物館のどうぶつ園

博物館に収蔵している動物剥製を一同に集めて展示しました。今回展示した剥製は、寄贈されたものが中心です。かつての函館は、外国航路の船員も多く、昭和30～50年代には、諸外国から珍しい動物の剥製がお土産品として持ち込まれていたようです。

期 間	平成29年9月16日(土)～ 平成30年9月9日(日)
開館日数	開催中
出品協力	なし
出品資料	メガネカイマンほか127点
関連事業	なし
担 当	尾崎・佐藤



一同に展示された動物剥製

## 平成29年度展覧会開催状況

### ■ 指定文化財そろいぐみ

「ほっかいどう」の名付け親である松浦武史郎の「北海道入」の署名のあるアイヌ絵のほか、新たに函館市指定文化財に指定された日米親善人形など、当館が所蔵する北海道や函館市指定の文化財を展示しています。

期 間	平成29年11月18日(土)～ 平成30年6月24日(日)
開館日数	開催中
出品協力	なし
出品資料	落下コロポックル人の図、 日米親善人形ほか212点
関連事業	なし
担 当	保科



## 平成29年度展覧会開催日数・入館状況

※常設展は新収蔵資料展を含む

	常設展	企画展	合計
開催期間	4/1～5/31 9/16～3/31	6/13～8/27	
開催日数	189日	66日	255日
有料入館者	3,074人	1,914人	4,988人
無料入館者	3,940人	655人	4,595人
入館者合計	7,014人	2,569人	9,583人

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
日	4/1～5/31		6/1～6/11	6/13～8/27		8/29～9/15	9/16～11/5	11/7～11/17	11/18～3/31			
ロビー									ひな人形 1/27～3/29 担当:保科			
第1展示室			企画展 「能登川コレクション展 —考古学に魅せられて ・能登川隆の生涯—」 担当:小林		展示替え		企画展 「新収蔵資料展」 担当:保科・尾崎		収蔵資料展 「市立函館博物館蔵 指定文化財そろいぐみ」 担当:保科			
第2展示室	常設展		展示替え		資料燻蒸 博物館実習		収蔵資料展 「能登川コレクション展」 担当:小林		収蔵資料展 「能登川コレクション展」 担当:小林			
第3展示室			収蔵資料展 「土田コレクションと 堤コレクション ・松前家関係資料」 担当:奥野				収蔵資料展 「博物館の どうぶつ園展」 担当:尾崎・佐藤		収蔵資料展 「博物館のどうぶつ園展」 担当:尾崎・佐藤			
			収蔵資料展 「箱館戦争と昔の生活用具」 担当:保科				収蔵資料展 「箱館戦争と昔の生活用具」 担当:保科		収蔵資料展 「箱館戦争と昔の生活用具・ひな人形」 担当:保科			

## — 普及（講座） —

## 平成29年度 講座開催実績

## 【単講座】

No.	講座名	開催期日	講師	参加/定員
1	春の美術鑑賞会 蠣崎波響	5月14日(日)	奥野	6/10
2	博物館旧一号館公開	5月25日(木)	—	104/—
3	鹿角で釣り針を作ろう	6月17・24日(土)	外部講師 小林	11/15
4	学芸員こぼれ話 「函館観光とアイヌ文化」	6月25日(日)	外部講師 奥野	17/15
5	夏休み自由研究 「日本画でうちわづくり」	7月22日(土)	奥野	10/10
6	夏休み自由研究「ふれてみよう！身近なアイヌ文化」	7月23日(日)	外部講師 奥野	6/15
7	夏休み自由研究 「博物館子供探検隊①」	7月26日(水)	保科	7/10
8	夏休み自由研究 「縄文土器を作ろう」	7月29日(土)・ 8月19日(日)	外部講師 小林	5/15
9	夏休み自由研究 「黒曜石で矢じりを作ろう」	8月3日(木)	外部講師 小林	13/15
10	夏休み自由研究 「和綴じ本を作ろう」	8月6日(日)	外部講師 奥野	12/10
11	夏休み自由研究 「博物館子供探検隊②」	8月9日(水)	保科	5/10
12	博物館旧一号館公開	8月19日(土)	—	252/—
13	夏休み自由研究「大森浜の貝で標本箱を作ろう」	8月20日(日)	奥野・尾崎・佐藤	28/15
14	秋の美術鑑賞会 蠣崎波響	9月17日(日)	奥野	7/10
15	体験！日本画教室	10月1日・8日・ 15日(日)	外部講師 奥野	5/8
16	思い出の青函連絡船	10月7日(土)	尾崎	17/15
17	やさしく学ぶアイヌ語講座 基本編	10月21日(土)	外部講師 奥野	7/15
18	やさしく学ぶアイヌ語講座 応用編	10月22日(日)	外部講師 奥野	6/15
19	SPLコードを聴いてみよう！	11月25日(土)	尾崎	4/15

計 522

## 【展示解説セミナー】

No.	講座名	開催期日	講師	参加
1	企画展「能登川コレクション展」	7月20日(木)	小林	13/—
2	企画展「能登川コレクション展」	8月10日(木)	小林	8/—
3	企画展「新収蔵資料展」	9月16日(土)	実習生	17/—

計 38名



製作した黒曜石の矢じりを付けた矢を射る子供たち

## 【おもてなし講座等】

※平成29年1月1日～平成30年3月31日開催

No.	講座名	開催期日	件数/参加数
1	展示解説	通年	15件 343名
2	バックヤードツアー	通年	5件 77名
3	見せます！お宝公開！	4/1～11/5の開館日	2件 45名
4	函館博物館見学	4/1～11/5の開館日	1件 16名

計 25件/515名

※人数は、複数講座受講者を含む延べ人数

## 協力機関等

深野せき子、北海道大学植物園・博物館、公立はこだて未来大学、函館市縄文文化交流センター、公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構、今金町教育委員会、宮村智子、安積徹、大矢京右（順不同・敬称略）

## — 調査・研究 —

## 調査事業

- 博物館資料調査研究事業（奥野）  
梁川剛一資料所在調査（東京都調布市、3月）

## 研究論文・コラム等

※平成29年1月1日～平成30年3月31日掲載分

- 研究論文等
  - ・大矢京右 2017「児玉コレクションの収集経過とその周辺」『市立函館博物館研究紀要』27：pp.1-40、市立函館博物館；函館市
  - ・保科智治 2018「館蔵史料にみる函館商人の様相」『市立函館博物館研究紀要』28(電子版)：pp.10-103、市立函館博物館；函館市

## ■ 新聞掲載コラム

・函館新聞連載「私のイチオシ 函館のお宝紹介」  
(8月31日～11月2日 10回連載)

保科智治「弁天台場解体工事写真」

小林 貢「択捉島紗那周辺出土の埋蔵文化財資料」

奥野 進「恵山地区に伝えられたアイヌ資料」

佐藤理夫「函館山のミソサザイ」

尾崎 渉「函館市いろはかるた」

以上当館学芸員執筆

野田妃果莉「函館大火復興写真」

宍戸 睦「サイベ沢遺跡発掘の思い出」

坂本恵衣「まちの文房具屋さん」

斉藤音夢「活気あふれる広告図案」

雲中 慧「木彫り熊」

以上博物館実習生執筆

・北海道新聞(夕刊 みなみ風)掲載「学芸員レポート」

小林 貢「函館市指定有形文化財 弁天台八千代橋の図」(10月13日)

佐藤理夫「モースと考古学」(7月14日)

保科智治「一見の落とし穴」(12月8日)

奥野 進「博物館のもうひとつの楽しみ方 バックヤードへようこそ！」(2月9日)

## ■ 道南ブロック博物館施設等連絡協議会ブログへのコラム投稿

奥野 進「博物館のもうひとつの楽しみ方 バックヤードへようこそ！」

大矢京右「昆布が支える伝統文化」

保科智治・奥村美奈代(公立はこだて未来大学)「研究テーマとしての情報ブース3」

佐藤理夫「アイヌとエゾダテ山」

奥野 進「描かれたイメージとしてのアイヌ」

小林 貢「恵山貝塚出土資料に見られるクマ意匠について」

保科智治「館蔵史料にみるアイヌ、松前藩、幕府」

保科智治「娘を借金のカタに」

## 印刷物発行

※平成29年1月1日～平成30年3月31日発行分

■市立函館博物館 2017『市立函館博物館研究紀要』

27 ※平成29年3月31日発行 40頁

■市立函館博物館 2017 企画展『能登川コレクション—考古学に魅せられて・能登川隆の生涯—』

※平成29年6月13日発行 40頁

■市立函館博物館 2017『市立函館博物館研究紀要』

28(電子版) ※平成30年2月1日掲載

## — その他の協力事業 —

### 協力事業

※平成29年1月1日～平成30年3月31日実施分

■函館市郷土資料館常設展示 本館所蔵、明治期の歴史・民俗資料等を展示

■函館市北方民族資料常設展示 本館所蔵、アイヌ・北方民族資料等を展示(3月・11月展示替え)

■函館市文学館常設展示「梁川剛一コーナー」 本館所蔵、挿し絵・彫塑等を展示(4月7日・10月5日展示替え)

■函館市北洋資料館常設展示 本館所蔵、北洋漁業関係資料を展示

■函館市戸井西部総合センター常設展示コーナー 本館所蔵、戸井の板碑・土器・石器等を展示

■えさん小学校展示コーナー 本館所蔵、恵山地区出土の土器・石器等を展示

■函館市公会堂 本館所蔵、人力車・小林写真館関係資料を常設展示

■箱館奉行所常設展示(平成22年7月28日～)

本館所蔵「エンフィールド銃」他 計6点貸出

■函館市縄文文化交流センター常設展示(平成28年4月1日～平成29年3月31日) 本館所蔵「ヤス」他 計155点貸出

■函館市縄文文化交流センター平成29年度企画展「縄文土偶サミット」(平成29年8月15日～平成29年10月7日) 本館所蔵「土偶」他 計10点貸出

■平成28年度アイヌ工芸品展「イカラカラーアイヌ刺繍の世界」(平成29年1月25日～3月24日) 本館所蔵「アットゥシ」他 計15点貸出

■函館市教育委員会主催「函館空港ギャラリー常設展示 函館縄文遺跡探訪—函館空港遺跡群と北の縄文文化—」(平成28年4月1日～平成29年3月31日) 本館所蔵「伊藤コレクション」他 計14点貸出

■東京都写真美術館「夜明けまえ 知られざる日本写真開拓史」(平成29年4月3日～5月23日)

本館所蔵「二枚継鶏卵写真」・本館寄託「石塚官蔵」計72点貸出

■北海道立函館美術館「ニッポンの写実 そっくりの魔力」(平成29年6月6日～8月31日) 本館寄託「渡邊孝平之像」計1点貸出

■北海道博物館主催特別展「プレイボール！」(平成29年6月15日～10月22日) 本館所蔵「函館太洋倶楽部関係資料」計52点貸出

■八雲町郷土資料館主催平成29年度特別展「ユーラップアイヌ」(平成29年8月17日～11月30日) 本館所蔵「椎久コレクション」計42点貸出





## ■ 清掃ボランティア

北海道立五稜郭支援学校の多大なるご協力をいただき、今年度も本館館内や旧一号館・二号館の清掃作業をおこないました。

生徒の皆さんの勤勉かつ実直な作業のおかげで各館内がきれいになりました。この場を借りて同校生徒の皆さんと先生方に心より感謝申し上げます。



一号館の床を清掃する五稜郭支援学校の生徒たち

## アイヌの伝統儀礼イチャルパを実施

10月29日に函館アイヌ協会主催により、当館で保管しているアイヌ民族のご遺骨のイチャルパ（先祖供養）が、当館横の広場で実施されました。今年で2回目の開催となりましたが、無事に儀式を終えることができました。



イチャルパの様子

## 平成30年度企画展開催予告

### ■ 企画展「北の昆布展」(7月10日～9月9日)

北海道で生産された昆布は、全国各地で古くから利用され、多様な伝統文化の形成に大きな役割を果たしてきました。本企画展では、昆布の生産地や加工品、歴史、魚具などを紹介するとともに、失われつつある昆布の伝統的な利用、特に「祝い」の場での利用に注目して紹介します。

この企画展は、日本学術振興会の「課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業」実社会対応プログラム「日本の昆布文化と道内生産地の経済社会の相互連関に関する研究」の成果によるものです。

## 平成29年度職員構成等

館長 齊藤総一 ————— 博物館協議会(委員 11名)

管理担当

学芸担当

埜畑 亘 (主査)

尾崎 渉 (主査、自然)

山本裕子

奥野 進 (主査、美術・民族)

政田 泉

小林 貢 (考古)

木村 侑(臨時)

保科智治 (歴史・民俗)

佐藤理夫(自然)

山本泰子 (嘱託)

※ 函館市中央図書館郷土資料担当

中貝聡介(主査)

長谷川佳代子

佐藤珠江(嘱託)

福本衣栄(嘱託)

坂本恭子(嘱託)

奥山麻央(嘱託)

SARANIP—サラニップ— No. 57

編集・発行 市立函館博物館

〒040-0044

北海道函館市青柳町17番1号

TEL:0138-23-5480 FAX:0138-23-0831

E-mail:hakohaku@city.hakodate.hokkaido.jp

— 誌名SARANIP (サラニップ) —

アイヌ語：樹皮を編んで作った袋

博物館情報や研究成果などをSARANIPに入れておき、その蓄積が今後重要な資料となっていくようにと命名したものです。